

平成 30 年度 第 1 回学校協議会報告

日時：平成 30 年 9 月 1 日(土) 13:30～15:30

会場：東大谷高等学校 多目的室 1

1. 校長挨拶

2. 協議会委員自己紹介（敬称略）

委員：東京子氏 有本昌剛氏 堀川 浩氏 宮坂政宏氏

（欠席）至 孝也氏 中村俊一氏 合志由美子氏

事務局：神代一徳（校長） 長尾文孝（教頭） 市居政彦（進路指導部長） 橋本壽志（指導部長）

竹花顯（校務部長） 東明美（教務部長） 出水謙一郎（入試対策部長） 志藤真裕（情報部長）

3. 議事

（1）平成 30 年度当初生徒概況

- ・生徒在籍数
- ・高校入試概況

（2）平成 30 年度学校経営目標

- ・高大連携の強化……薬剤師育成プログラム先行実施 教員養成プログラム構想中
- ・進学コース……高大連携と選抜クラス
- ・国際コース……海外留学（ニュージーランド）本年度希望 60 名中 25 名（昨年 18 名）
- ・特進コース……国公立 30 名関関同立 100 名を目標に学習の効率化を図る。

（3）大谷学園薬剤師育成プログラム

- ・概要説明……1 年生でガイダンス・特別セミナーによりモチベーションアップを図る。2, 3 年生では大学に必要な学力（数学Ⅲ・物理・科学・生物）を習得する。そして大学へ送り出す。
- ・高大連携はメリットが多い。大学での内容を中学生にも示してゆけば、今後アピールポイントになる。

（4）授業アンケートについて

- ・評価の低い設問 3「予習復習について」と他の項目の相関を調べてみたらどうか。
- ・設問 1「授業に向かう積極性」、設問 3 は、「自ら学ぶ」アクティブラーニングに関する項目である。
- ・否定的な意見を持つ生徒をどう指導してゆくかが大切である。
- ・アンケートが授業改善にどう生かされるのか、先生方の意識の持ち方が大事である。
- ・各設問と学力の相関を調べると何かが見えてこないか。

（5）その他

- ・東大谷には「探究ゼミ」「10 年未来プロジェクト」「宗教」等の積み上げがあり、独自のアクティブラーニングを行う環境ができています。カリキュラムを整えれば有効なものとなる。その手法を各教科でどのように活かしていくかが次の課題となる。
- ・主体的な学びについては、主体的に学んでいる生徒を分析し、それを理想像として他の生徒を近づけるような方策を取るとよいのではないかと。
- ・留学をより効果的なプログラムとするために、目的の設定と検証を繰り返し行わせる。
- ・知識量をそのままに学力の 3 要素を育てる時間を確保するためには ICT 機器を用いた授業の効率化が必要となる。
- ・英検準 1 級の生徒の進学先を示すことが PR 効果をうむのではないかと。